

入選 広島県 福田様（高校生 女性）

私は今まで「年金」というものに、良いイメージを持っていませんでした。それは、近年ニュースで取りあげられている年金問題の印象が強いからです。よく年金のことについて理解していないのに、そういったニュースを見ることが多いため、悪いイメージばかりががついてしまったんだと思います。先日、日本年金機構の方々当校に来られ、年金についてのお話をさせていただきました。そのお話を聞き、私の中での年金のイメージが良いものへと少しずつ変わっていきました。年金についてよく考え、理解することで年金の悪い面だけではなく良い面を知ることができたためです。例えば、私は少子高齢化が進むことにより、今の若者は将来、払った保険料分すら受け取れないんだろうと思っていました。しかし、自分が払った保険料を上回る年金は受け取れる計算となっているということを知り、驚いたとともに安心しました。

そこで学習したように日本の公的年金制度は三本の柱になっています。公務員がもらう共済年金、サラリーマンがもらう厚生年金、その他の人がもらう国民年金。私たちは二十歳になると、この国民年金に加入することになります。公的年金の制度は、年老いたときやいざというときの生活を働いている世代みんなで支えようという考えで作られた仕組みなので、みんなが加入することが大切だと思います。私自身が年金を受け取るようになるのはまだ先の話ですが、保険料をきちんと支払うという事は義務だと思います。本来、公的年金は国民みんなで支え合う社会保険制度なので、「損か得か」で考えるものではありません。しかし、現代の人は年金の仕組みもよく知らず、テレビなどの情報に惑わされてしまい、年金制度の悪い印象を持ち、保険料を支払わない人が増えているのではないのでしょうか。

私たちは、東日本大震災のときに人と人との繋がり大切さを実感し、自分のことは後回しにしてでも、人を助けようとする人々の心に胸を打たれました。直接手助けは出来なかった人も、「助きたい」「支えたい」とは思っていたはずです。年金の制度もみんなが支え合うということが一番重要なことです。自分のことだけを考えるのではなく、みんなが「支え合い」ということを考えることが出来れば、もっとみんなが納得して保険料を納めると思います。そうすれば、若者と老

人との受け取れる年金の額による不平等感を感じる人も減っていったら、もっといい年金制度が構築されていくのではないのでしょうか。

私は経済関係の進学を考えており、大学でビッグデータの研究をしたいと考えています。この度、エッセイを書くという機会を頂いたことで、年金の制度に深く関心を持つようになりました。大学に入ったら、年金のデータを分析し、今後の制度としての方向性を研究するというのもやってみたいと思うようになりました。

私たち、一人ひとりがもう一度「支え合い」について深く考えること、また「支え合い」の重要性を理解した私のような人間が、それを知らない人々に積極的に発信していくこと。こうした努力を私たちが粘り強く続けることで、本当の意味での「支え合い」を実践することが出来るのではないのでしょうか。年金という制度は私に、今一番大切なことを教えてくれたような気がします。